

## 評価

平成29年度二酸化炭素排出量は、基準年度（平成20年度）と比較して、19.1%の増加となりました。増加した要因として大きいものは、電気の排出係数の大幅な増加であり、この値が基準年度比で18.8%増加しております。なお28年度に比べ係数は下がっておりますが、これは北陸電力の発電内訳において水力発電の割合が増えたためです。

市の取組みを評価するためにエネルギー使用量についても評価します。近年のエネルギー使用量は横ばい傾向であり、平成29年度は基準年度比で9.7%の減少となりました。基準年からの減少要因として施設改修による省エネ化など設備、施設の改善、低燃費車の導入が挙げられます。今後も老朽化施設の改善を進めると共に、賢く省エネを進めるために省エネ診断等を利用し、施設の更なる省エネルギー化を進めていきます。

発生源別では、電気が主な発生源であり、エネルギー使用量は基準年比23.0%増加となっています。これは、より効率的なエネルギーである電気へのエネルギー転換を進めたこと、人口増加に伴い各施設において利用人口が増加したことが要因であると考えられます。

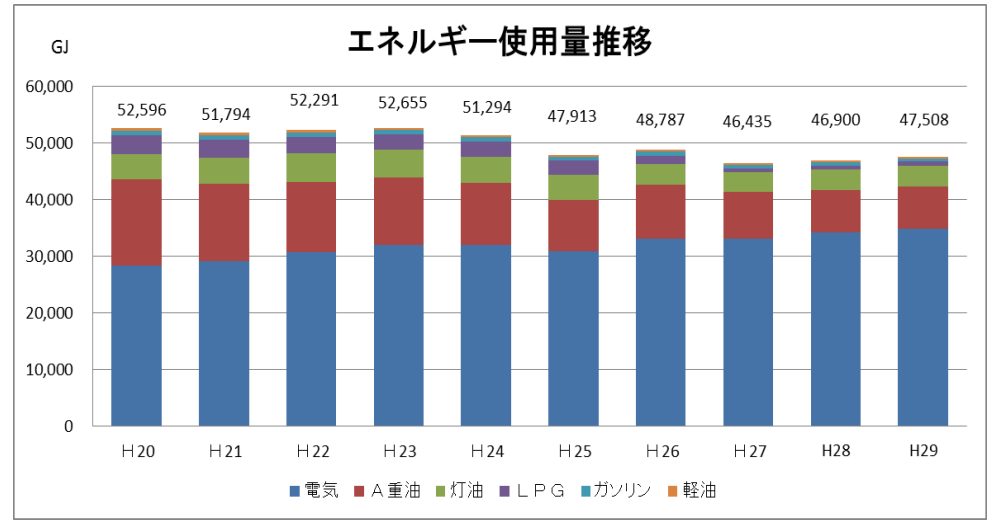
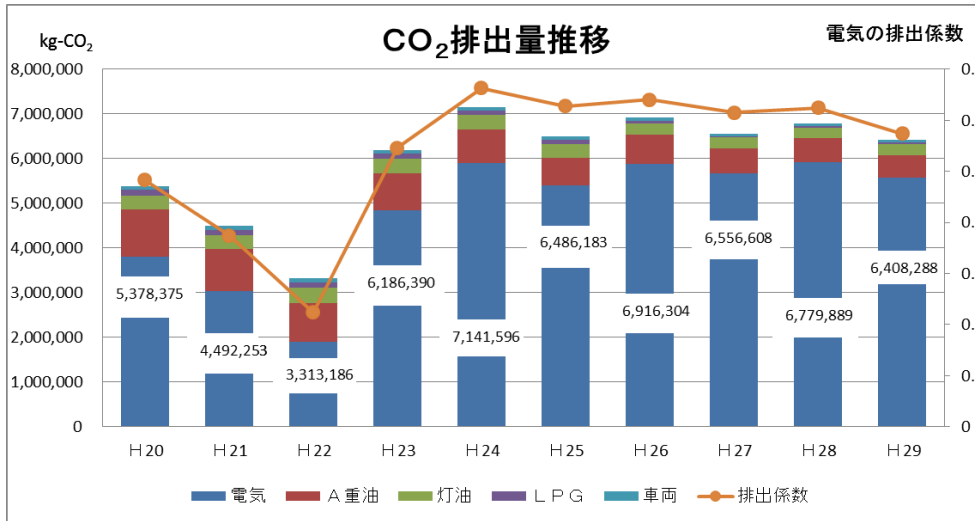


表1 発生源別二酸化炭素排出量 (単位：kg-CO<sub>2</sub>)

要因	平成20年度 排出量 (基準年度)	平成28年度 排出量	平成29年度		
			排出量	構成割合	基準年度比 増減
電気	3,805,799	5,925,775	5,562,845	86.8%	46.2%
A重油	1,051,878	522,418	518,354	8.1%	-50.7%
灯油	309,374	246,057	242,633	3.8%	-21.6%
LPG	127,186	26,118	29,206	0.5%	-77.0%
車両	84,138	59,521	55,250	0.9%	-34.3%
合計	5,378,375	6,779,889	6,408,288	100.0%	19.1%

表2 発生源別エネルギー使用量 (単位：GJ)

要因	平成20年度 排出量 (基準年度)	平成28年度 使用量	平成29年度		
			使用量	構成割合	基準年度比
電気	28,366	34,187	34,889	73.4%	23.0%
A重油	15,179	7,538	7,480	15.7%	-50.7%
灯油	4,561	3,627	3,577	7.5%	-21.6%
LPG	3,252	668	747	1.6%	-77.0%
車両	1,239	879	815	1.7%	-34.2%
合計	52,596	46,900	47,508	100.0%	-9.7%